

連盟ニュース

編集後記

●『加盟大学財務状況調査結果の概要』を公表

本連盟財政部会では、かねてより加盟大学の平成四年度「財務状況調査（平成三年度実績）」の結果を中心に分析を行っていたが、これを「加盟大学財務状況調査結果の概要」にまとめ、総会に報告の後、平成四年12月15日に公表した。

同概要は、学校法人の会計処理と計算書類、大学部門の財務状況、法人全体の財務状況、補助金と学生納付金の関係、学生一人当たりの支出と収入、の五節に分けてまとめられている。

内容は次号で詳報。

●黒津敏行氏（園田学園女子大学元学長・元連盟会員代表者）11月16日、老衰のため逝去。94歳。
●古賀繁一氏（成蹊学園理事長）12月14日、肺炎のため逝去。89歳。
●岡茂男氏（武蔵大学元学長）12月14日、多臓器不全のため逝去。72歳。

□恭賀新年。大学を取り巻く環境は近年大きく変わりつつありますが、

進取の精神で、癸酉の新年が私立大学にとって飛躍の年になりますよう読者の皆さんとともに祈りたいと思います。そして本年も旧年変わらない「大学時報」へのご支援ご協力と私どもへのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

□二十世紀も残すところ、八年である。今世紀後半だけを見ても、あらゆる分野で激しい変動・変革があった。科学技術は、情報化社会をつくり、経済の分野は、国を越えてグローバルな活動となつて展開されている。東欧の諸国は、市場主義を導入して新しい道を歩みつつある。その一方で、地球環境やエイズなど、人類にとって大変な難問が目前に立ちだかつてきた。このような変動や変革、問題は、二十一世紀にどのような引き継がれ、学問や文化、社会、さらに大学のあり方にどのような影響を与えるのだろうか。そこで、二

十一世紀に入るまでにどういうことをなすべきか、何を考えるべきか、大学の「現実と夢」の間の諸問題を確認し、将来を見据えた議論をしていただくことと企画したが、二〇〇〇年の大学・学問・社会の座談会である。二十一世紀に向けて大学の課題は多いが、積極的な取り組みを願う。

□平成五年度以降十八歳人口が減少に向かうことから、大学は冬の時代を迎える、とマスコミが賑わして久しい。こういふことが影響しているのか、ここ十年間に大学の広報活動は、拡大し多様化してきた。受験雑誌、新聞等の学生の募集広告の時代からテレビCM、旅行雑誌等様々なメディアを活用したアピールの時代へと変化しているし、広報紙の提供システムなどの手法も様々。ところが、こういった広報活動が、果して大学本来の機能である教育研究の観点から展開されているか、といった疑問視する声もある。特集「大学の広報活動」は、大学における広報活動の歴史を考察し、二十一世紀の大学における広報活動のあり方を考えようと企画した。この特集は、い

本誌をご希望の方は……

○連盟事務局広報課までハガキか電話でお申し込み下さい。

○お申し込みの際は、住所、氏名、大学（会社）名をご明示下さい。

○ご希望の方には、協賛協力金（年間五〇〇〇円）を負担していただきます。

ま広報のあり方を模索中の大学のみなさんへ多くの示唆を与えてくれる。□本号の「クローズアップ・インタビュー」には、大宅映子さんに「登場いただいた。大宅さんは、ICUのOG。企業や団体の文化イベントの企画プロデュースをはじめ、国際問題・国内政治経済から食文化・子育てまで守備範囲広く活躍されている方。関谷さんの質問に、同窓の誼か、パチッと、しかし論ずような口調で話されていたのが印象的であった。男、女の「よきを生かして、はやりことばじゃないけど、共生」するのは大人の社会」は、大宅さんとは同世代の私などは同感。齒に衣を着せぬ話し振りは、聞いていて気持ちがいい。（野崎 政武）